

脳のはなし、
神経のはなし

TonTonClinic

トントンクリニック

第15回

もの忘れ⑤

親仁会佐藤病院 神経内科 田村洋平



もの忘れが気になって医療機関を受診した際には、まず生活状況(病歴といいます)を聴きとります。診察所見、記憶テスト、血液検査、脳MRI検査などを参考に、診断を行います。

アルツハイマー型認知症の頻度が多いのですが、なかには多発性脳梗塞やレビー小体型認知症という認知症も少なくはありません。前頭側頭型認知症などというものもあります。

まれではありますが、大脳皮質基底核変性症や進行性核上性麻痺といわれるような神経疾患もあります(ただし、これらは認知症の前に歩行困難などで先に外来を受診することが多いです)。もの忘れに困って外来を受診しましたが、実は脳腫瘍だったとか、ウィルス性脳炎(ヘルペス脳炎な

ど)、クロイツフェルト・ヤコブ病、進行性多巣性白質脳

症だったとか。前回書きましたが、何らかの(ほかの病気のための)薬が原因でもの忘れをきたしたり、また栄養不足でビタミンBが不足していたりしても「もの忘れ」を起こします。

聞きなれない病名がたくさん出てきましたよね。何をお伝えしたいのかというと、ひとくちに「もの忘れ」と言っても、実はアルツハイマー型認知症だけでなく、これだけたくさんの病気があるのです。ですので、おかしいなと感じたら皆さんのかかりつけの医師に相談し、できれば認知症の診療経験の多い医師・医療機関を紹介してもらおうと良いと思います。

■佐藤病院 宇都宮市西3丁目1-11 028(633)9261 www.sato-hosp.jp/